６　アナフィラキシー発症時の対応

異常に気付く
（発見者）

【異常（アレルギー）を示す症状】

全身の症状　：意識がない、意識もうろう、ぐったり、尿や便を漏らす、脈が触れにくい、唇や爪が青白い

呼吸器の症状：声がかすれる、犬が吠えるような咳、咳、息がしにくい、のどや胸が締め付けられる、ゼーゼー、ヒューヒュー

消化器の症状：腹痛、吐き気、嘔吐、下痢

皮膚の症状　：かゆみ、じんま疹、赤くなる

顔面・目・口・鼻の症状：顔面の腫れ、目のかゆみや充血、まぶたの腫れ、くしゃみ、鼻水、鼻づまり、口の中の違和感、唇の腫れ

◇大声で応援を呼ぶ
（近くの児童生徒に他の教職員を呼ぶように伝える）

発見者が行うこと

①　子どもから目を離さない、ひとりにしない。観察）
②　助けを呼び、人を集める。
（大声または、他の子どもに呼びに行かせる。）
③　エピペンと内服薬を持ってくるよう指示する。
○　管理者が到着するまでにリーダー代行となる。
○　薬の内服介助、心肺蘇生やＡＥＤの使用

緊急性が高いアレルギー症状はあるか？（５分以内に判断）

【全身の症状】
- ぐったり
- 意識もうろう
- 尿や便を漏らす
- 脈が触れにくい または不規則
- 唇や爪が青白い

【呼吸器の症状】
- 喉や胸が締め付けられる
- 声がかすれる
- 犬が吠えるような咳
- 息がしにくい
- 持続する強い咳き込み
- ゼーゼーする呼吸

（喘息発作と区別できない場合を含む）

【消化器の症状】
- 持続する強い（我慢できない）お腹の痛み
- 繰り返し吐き続ける

１つでもあてはまる場合

①　ただちにエピペンを使用する
（エピペンの使い方参照）
②　救急車を要請する（119番通報）
③　その場で安静にする
（立たせたり歩かせたりしない）
④　その場で救急隊を待つ
⑤　可能なら内服薬を飲ませる

ない場合

①　内服薬を飲ませる
②　保健室または安静にできる場所へ移動する
③　５分毎に症状を観察し、緊急性が高いアレルギー症状の出現に注意する

★　エピペンを使用し、10～15 分後に症状の改善が見られない場合は、次のエピペンを使用する（２本以上ある場合）
★　反応がなく、呼吸がなければ心肺蘇生を行う
（心肺蘇生とＡＥＤの手順参照）

救急隊へ

教職員の動き

校長・教頭　等
- ○　現場に到着次第、リーダーとなる。
- ○　それぞれの役割の確認および指示
- ○　エピペンの使用または介助
- ○　心肺蘇生やＡＥＤの使用

教職員Ａ（準備）
- ○　「食物アレルギー緊急時対応マニュアル」を持ってくる。
- ○　エピペンの準備（使用･介助も含む）
- ○　ＡＥＤの準備（使用･介助も含む）
- ○　内服薬の準備

教職員Ｂ（連絡）
- ○　救急車を要請する（１１９番通報）
- ○　（管理者を呼ぶ）
- ○　保護者への連絡
- ○　さらに人を集める（校内放送）

他の教職員（記録）、（その他）
- ○　観察を開始した時刻を記録する
- ○　エピペンを使用した時刻を記録する
- ○　内服薬を飲んだ時刻を記録する
- ○　５分毎に症状を記録する

- ○　他の子どもへの対応
- ○　救急車の誘導
- ○　エピペンの使用または介助
- ○　心肺蘇生やＡＥＤの使用

安静体位

吐き気や嘔吐がある場合は、嘔吐物による窒息を防ぐため、体と顔を横に向ける。
(呼吸が苦しくて仰向けになれない場合は、上半身を起こして後ろに寄りかからせる。)